



花の命は短いけれど美しく咲いた瞬間や植物の強く生きる姿を、その時の自分の思いと共に残せる…。  
押し花の魅力はそんな自然との対話にあります。



わたなべ ともこ  
渡邊 智子さん

今月は、押し花アートのインスタクター渡邊智子さんを「紹介」します。

自分の庭や畑、また山々を散策し、拾った落ち葉や草花を利用した自然の楽しみ方として、押し花アートは今ひそかに人気を集めています。自然の素材が豊富な阿蘇にはびつたりのアートです。そんな押し花のインスタクターとして県内で活躍されているのが、古城にお住まいの渡邊智子さん(66歳)。生涯学習講座はじめいくつもの教室で講師をする傍ら、作品づくりにも意欲的で、全国押花絵画展で大賞、世界創造展入選、熊本県民文化祭入選などを受賞されています。また、学校の総合学習に参加し子どもたちに自然の大切さを伝えたり、音楽と共に押し花を楽しむなど、『自然と触れ合うきっかけづくり』も大切にされています。

日に一度でも、自然と向き合う時間を持っていますか。

子どもたちと触れ合っていると「子どもの人格形成は学校教育ばかりでなく、日常の生活から培われるものと実感する」と渡邊さん。「道端の小さな花も見てあげて」と命を慈しむことを教えるとともに優しい眼差しになる阿蘇の子どもたち。この子たちの人間らしい成長が一番の願い。

数年前ご主人を亡くされ子どもさんたちも巣立った現在ですが「家から外の景色を眺めていると、雄大な阿蘇に住んでいることを本当に思いいます」と、心の健康のためにも、時折、

阿蘇の自然と接する時間をつくることはいいこととすすめられます。渡邊さんの作品は、「古閑の滝」などの名所を描いたものや、屏風や電燈などのインテリア、小物を使ったアートと多種。押し花自体は、乾燥シートを利用すれば簡単にでき、どなたでも楽しめます。



▲自宅のアトリエ



▲世界創造展入選作品  
題「白い花」山しら菊への想い

▼古閑の滝



道尻区が宝くじ助成事業で今町川河川敷を整備

道尻区では、かねてから河川の草刈や清掃等の環境美化活動に積極的に取り組んでおられます。この程、県が管理している今町川河川敷の一部を活用して環境美化整備を図るため、コミュニティ助成事業の支援を受けて、アジサイ312本、ドウダンツツジ104本、ヒメシャラ5本、ヤマザクラ5本、ヤマモミジ5本、ヤマボウシ5本、コブシ9本を植栽しました。

今後、整備された公園を地区住民の憩いの場として活発的に活用していく予定です。

このコミュニティ助成事業は、宝くじの普及広報事業費を財源として、財団法人自治総合センターが助成決定を行うものです。

